

NSW スマートフォン総合管理サービス「PALLADION(パラディオン)」

セキュリティに加え資産管理機能も拡充
利便性に配慮したMDMをクラウドで

中小企業のスマートフォン活用がいよいよ始まろうとしている。中小企業のスマートフォン活用の鍵は、セキュリティ対策にプラスして、企業力強化に役立てる活用法を探り実現すること。そして管理者の負荷を軽減することだ。NSW(日本システムウェア株式会社)のパラディオンはそうした中小企業の課題に応えるクラウド型MDMだ。

スマートフォンの業務利用が試行段階から本格導入へと移行すると、管理すべき端末の台数が増加し、それを背景として資産管理機能の搭載や管理者にとっての操作性に対するニーズが高まる。大企業のみならず中小企業もスマートフォンを本格導入しようとしている中、そうしたニーズに応えたMDMをクラウドサービスとして提供しているのがNSW(日本システムウェア株式会社)だ。

「一般的なMDM製品はセキュリティにフォーカスしているが、当社の『パラディオン』はセキュリティ機能を網羅しつつ、それに加えて資産管理機能と管理者に配慮した利便性を備えていることが大きな特徴」と、プロダクトソリューション事業本部エンベデッドソリューション事業部部長の小笠原常雅氏は話す。

パラディオンの対象はAndroid OS。サービスの柱はセキュリティ対策と資産管理機能だ。セキュリティ対策についてはリモートロック/データ消去、パス

ワード管理、エージェント自動更新に加え、Android用のウイルス対策ソフトとして世界屈指のダウンロード実績を持つ「ALYac Android」(ESTsoft社製)との連携など豊富な機能を備える。

さらに、きめ細かな資産管理機能を持つことがパラディオンの特徴だ(図表1)。PC向けの資産管理ソフトで培った技術をベースとしたものである。

オフィスには大量のPCが導入されている。ITシステムを更新するに際してリース開始時期はもちろん、OSやソフトウェアのバージョンを記録しておくことが必須となる。多数のPCを人手で管理することは困難なため、多くの企業が資産管理ソフトを利用している。スマートフォンが企業に大量に導入されれば、同じ課題が生まれる。

パラディオンはそうしたニーズに対応している。社員が利用するスマートフォンにインストールされているアプリケーションの把握はもちろん、スマートフォンの活用度も把握できる。あまり活



NSW
プロダクトソリューション
事業本部エンベデッド
ソリューション事業部
部長
小笠原常雅氏

ていない部署のスマートフォンを利用頻度の高い部署へ配置し直すというように、ITリソースの最適利用を後押しする。また、購入費・回線費用などを把握することも可能だ。

スマホ以外にも多様なデータを集約
仕事に使える情報を一元管理

この資産管理機能にはスケジューラとメディアクローク機能を搭載している。例えば、工事現場の進捗状況を撮影した画像データを日付とともにMDMサーバーで管理することが可能だ。ホワイトボード等の什器も管理できることも大きな特徴で、それによって、会議室で使用する物品をスケジューラ機能を用いてスマートフォンから予約できる。会議に必要な物品の手配をMDMから一元管理できるわけだ。

「資産管理機能は他社のMDMにはない機能だ。スマートフォン自体や内部データだけでなく、それ以外の情報やデータもパラディオンで一括管理できるようにしたい。その端緒が操作ログの取得や什器の管理で、今後は社員のアクションの結果など仕事に使える情報を一元的に管理できるようにしてい



「パラディオン」の画面。会社の組織構造に合わせてグループ管理を三階層で表示できるなど、操作性に配慮している

く」と小笠原氏は話す。

仕事に使える情報とは例えば、社員がスマートフォンから発したメッセージをパラディオンのサーバーに集約して、社員がどんな目的でどのように動いたかがわかるようにすることを目指す。従来は細切れになっていた情報をスケジューラに集約して、その情報を中小企業が活用できるように資産管理機能を進化させていくという。

スマホの管理番号を自動生成
管理者の利便性に配慮

スマートフォンを持つ社員が増えれば、管理者の手間は自ずと増加する。その負荷をいかに軽減するのか、管理者にとって高い利便性を備えることもMDMの重要なテーマだ。

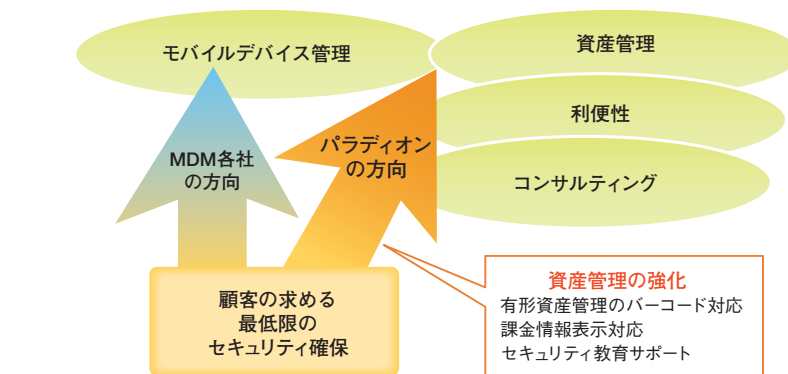
一般的なMDMの画面は、スマートフォンごとに管理項目が一覧表で示される形を取っているが、管理すべき端末が増えれば一覧表では目視しにくくなる。そこでパラディオンでは、変化した情報だけを表示する仕組みを採用している。つまり、アラートが出た項目のみを画面に表示するのだ。その項目をクリックすると詳細情報を見ることが出来る。また、会社の組織構造に合わせてグループ管理を三階層で表示する機能も他にあまりない機能だという。直感的な管理が行えるよう利便性に配慮していることもパラディオンの特徴といえるだろう(図表2)。

また、スマホの管理番号やリモートロックパスワードを自動生成できる機能も利便性の向上につながっている。管理番号の生成は全自動、半自動、手動という3つの手法を用意。企業によって管理しやすい手法を選ぶことが可能だ。例えば、管理番号の頭の部分を組織を表すものに手動で設定しておき、その後の番号を自動生成すれば、管理の容易性と設定作業の効率化が両立できるわけだ。

図表1 パラディオンの主な管理機能

端末情報取得集計	所有者や所属部署、利用場所等を管理。ソフトウェア、ハードウェア情報の内部情報も一元管理
アプリケーション管理	インストールされているアプリを一覧で表示。必要アプリと禁止アプリを管理し、禁止アプリを検出
備品・什器資産管理	会議室で使用する備品・什器などを予約・登録
操作ログ出力	ポリシー違反の操作ログ等、利用者の操作ログを取得して管理
位置取得	GPS機能を利用して位置を特定。位置情報を定期的に取得することによって移動経路を把握
ウイルス対策連携	「ALYac Android」(ESTsoft社製)と連携
BYOD	個人利用と業務利用を峻別

図表2 NSWの目指すMDMの方向

キittingやコンサルも提供
中小企業のスマホ活用を全面支援

導入当初は外勤の多い営業担当社員を中心とするヘビーユーザーにスマートフォンを配備し、その効果を見ながら他の社員に利用拡大しようとする企業が多い。ただし、ライトユーザーに専用の端末を持たせるとコストパフォーマンスは容易に上がらない。

コストパフォーマンスを上げるために有効な手法は、端末を複数の社員でシェアリングすることだ。パラディオンは、このシェアリングに便利な貸出管理機能を用意している。利用者と端末の紐付けが日時単位で管理できる機能だ。これによって、端末を共用した場合でも、利用者を特定した管理ができる。

また、BYODにも対応している。個人利用と業務利用を峻別する仕組みを備えており、例えば出勤時間に合わせて業務利用を設定すると、その時間からスマートフォンの画面が切り替わ

り、利用できるアプリも会社が認めているものだけとなる。また、通話ログを記録する機能を用いれば、業務で利用した通話料金を社員が会社に請求する目安が得られる。就業時間が終了すれば、プライベートな利用情報はいっさい取得しない。会社と社員個人の利便性に配慮しているわけだ。

このほかNSWは、端末の設定・キittingからポリシーの設定に関するコンサルティング、24h365dの運用管理サービスも提供している。現在、パラディオンはAndroidを対象として提供されているが、2012年度早々にiOSに対応したサービスも計画中。中小企業のスマートフォン活用を後押ししていく構えだ。

お問い合わせ先

NSW
日本システムウェア株式会社
プロダクトソリューション事業本部
TEL: 03-5456-2128
URL: <http://www.nsw.co.jp/solution/Palladion/>